



## 概況

11月の前年同月比DI値は、前月の前年同月比DI値と比べて、9指標中「在庫」「収益」「操業」「雇用」「景況」の5指標が上昇し、「価格」「資金」の2指標が低下した。主要3指標は、「売上」が前月と同ポイントの-7.7ポイント、「収益」が1.9ポイント上昇の-15.4ポイント、「景況」が1.9ポイント上昇の-21.2ポイントであった。指標を個別に見ると、「在庫」「操業」が10ポイントを超えて大幅に上昇した。「収益」「雇用」「景況」が2ヶ月連続で上昇した。

また、業種別の状況を見ると、図表4のとおり、「売上」は製造業で7業種中1業種が上昇、2業種が低下し、非製造業で6業種中2業種が上昇、2業種が低下した。「収益」は製造業で1業種が上昇し、非製造業で1業種が上昇、1業種が低下した。「景況」は製造業で2業種が上昇、2業種が低下し、非製造業で2業種が上昇、2業種が低下した。

全国指標では、前月の前年同月比DI値と比べて2指標が上昇し、7指標が低下した。全国的な暖冬傾向が冬物需要の消費性向を大幅に低迷させており、気候変動やコスト高に伴う価格体系の不安定化も相まって、需給バランスの不調を引き起こし、売上高の縮減を招いている。また、中国をはじめとするアジア市場の減退基調や先進欧米諸国の経済不安等、グローバルリスクも広範に高まっており、中小企業の先行きは依然として予断を許さない状況にある。

図表1～【業種別・指標別動向一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	操業	雇用	景況
食料品製造	△	△	△	△	×	△	△	△	△
繊維・同製品	△	△	△	△	△	△	×	△	△
木材・木製品	○	△	△	△	△	△	○	○	△
印刷	×	△	×	△	×	△	△	△	×
窯業・土石	△	△	△	△	△	△	△	△	△
鉄鋼・金属	△	×	△	△	△	△	△	△	△
一般機器	×	△	△	△	△	△	△	△	△
卸売業	△	△	△	△	△	△	—	△	△
小売業	△	△	△	△	△	△	—	△	△
サービス業	△	—	△	△	△	△	—	△	△
建設業	△	—	△	△	△	△	—	△	△
運輸業	△	—	△	△	△	△	—	△	×
その他	△	—	△	△	△	△	—	△	△

○ 増加・上昇・好転 (DI値 +40ポイント以上)      △ 不変      × 減少・低下・悪化 (DI値 -40ポイント以下)

図表2～【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	操業	雇用	景況
食料品製造	0.0	25.0	0.0	0.0	-50.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0
繊維・同製品	-25.0	0.0	25.0	0.0	-25.0	-25.0	-50.0	-25.0	-25.0
木材・木製品	50.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	25.0	50.0	50.0	-25.0
印刷	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0
窯業・土石	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	-25.0	25.0
鉄鋼・金属	-25.0	-50.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0
一般機器	-50.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0
小計	-8.0	0.0	-4.0	0.0	-20.0	-4.0	-4.0	0.0	-20.0
卸売業	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	/	0.0	0.0
小売業	-28.6	-14.3	28.6	-14.3	-28.6	-14.3		14.3	-28.6
サービス業	-16.7		0.0	0.0	0.0	-16.7		-16.7	-33.3
建設業	20.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
運輸業	-25.0		25.0	0.0	-25.0	0.0		0.0	-50.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
小計	-7.4	0.0	11.1	-3.7	-11.1	-7.4		0.0	-22.2
合計	-7.7	0.0	3.8	-1.9	-15.4	-5.8		-4.0	0.0

図表3～【指標別DI値の推移】

	H26		H27										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	-25.0	-9.6	-30.8	-32.7	-13.5	0.0	0.0	-7.7	-9.6	-15.4	-15.4	-7.7	-7.7
在庫数量	8.6	-8.6	-14.3	-11.4	0.0	-8.6	5.7	-2.9	-8.6	0.0	-8.6	-20.0	0.0
販売価格	3.8	5.8	3.8	3.8	5.8	1.9	9.6	7.7	11.5	7.7	3.8	7.7	3.8
取引条件	-11.5	-7.7	-11.5	-9.6	-3.8	-5.8	-9.6	-7.7	-3.8	-1.9	-7.7	-1.9	-1.9
収益状況	-36.5	-30.8	-32.7	-30.8	-23.1	-19.2	-11.5	-19.2	-15.4	-19.2	-25.0	-17.3	-15.4
資金繰り	-13.5	-15.4	-19.2	-11.5	-5.8	-7.7	-11.5	-11.5	-13.5	-11.5	-11.5	-3.8	-5.8
設備操業度	-28.0	-16.0	-16.0	-36.0	-16.0	-24.0	-8.0	-20.0	-8.0	-8.0	-16.0	-20.0	-4.0
雇用人員	-3.8	-7.7	-19.2	-13.5	-17.3	-11.5	-13.5	-15.4	-17.3	-7.7	-7.7	-3.8	0.0
業界の景況	-34.6	-26.9	-38.5	-32.7	-23.1	-21.2	-19.2	-19.2	-23.1	-21.2	-26.9	-23.1	-21.2

図表4～【前月DI値差】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	操業	雇用	景況
食料品製造	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	25.0	0.0
繊維・同製品	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
木材・木製品	75.0	50.0	-25.0	0.0	25.0	25.0	75.0	75.0	50.0
印刷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
窯業・土石	-25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0
鉄鋼・金属	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一般機器	-25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	-25.0
小計	4.0	28.0	-4.0	4.0	4.0	0.0	16.0	12.0	4.0
卸売業	0.0	0.0	-33.3	-33.3	0.0	0.0		-33.3	33.3
小売業	-28.6	0.0	-14.3	0.0	0.0	0.0		0.0	14.3
サービス業	16.7		0.0	0.0	33.3	-16.7		0.0	0.0
建設業	20.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	-20.0
運輸業	-25.0		25.0	0.0	-50.0	0.0		0.0	-25.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
小計	-3.7		0.0	-3.7	-3.7	0.0		-3.7	-3.7
合計	0.0	20.0	-3.9	0.0	1.9	-2.0	16.0	3.8	1.9

## 特記事項

情報連絡員報告（平成27年11月分）

所属組合	特記事項
酒類製造業	昨年に比べ、酒造りの時期が10日程度早くなってきているようだ。新酒を早く市場に出し売上を伸ばそうと努力している様子が見られる。
外衣・シャツ製造業	百貨店、専門店での高額衣料（秋冬物）の販売が順調のようだ。
染色整理業	長引く不況で、先行きに見通しが立たない。
一般製材業	加工坪数は前年対比で上昇したが、全体的な景況が良好な状況とは言い難い。11月は数字が好転したが、員外利用の受注に努めたことが一つの要因である。
建具製造業	本年の新規組合加入は4社、脱退1社となっている。11月7日に組合創立50周年式典を開催することができた。
木材・木製品製造業	公共物件の木造化、木質化が思った程進んでいない。更なる努力をお願いしたい。
印刷業	ニーズの変化、需要の縮小、過当競争、低価格、原材料価格の上昇など厳しい経営環境に変わりはない。
めっき業	中国の景気減退の影響により受注減となっている。
金属製品製造業	家庭電器製品が季節要因で減少している。
金属製品製造業	自動車関連は受注が相変わらず順調で、やや人手不足感がある。金型業界においては、プレス金型（特に自動車金型）が来年上半年期まで受注を確保しており、フル稼働の状況。 機械関連は、中国の減産により受注・生産が悪化している。
一般機械器具製造業	受注量が低調であるが、年末の駆け込み受注に期待したい。
一般機械器具製造業	本年11月は、前年同時期と比較し、前月に引き続き売上高がやや減少傾向。全般的に不景気感があり、懸念材料も感じ取れる。
一般機械器具製造業	新規受注、売上高は少しずつ好転してきている。機械加工の設備操業度、稼働率は良くなってきているが、更に効率を上げるべく工程の見直しを行っており、徐々にではあるが効果が出てきている。 雇用人員に関しては、中途採用で補強をし、生産に寄与すべく現在教育中である。従業員の平均年齢が高くなっており、技術の伝承を考えると対策が必要であるため、若い新入社員の雇用も含めて考えている。 製造業として独自性のある取り組みを行い、新規設備機械の導入を含めて対策を行っている状況である。
化粧品卸売業	年末の売上がアップすることを期待する。
各種商品卸売業	10月決算の海苔製造卸を行う組合員企業では、1年を振り返って、売上高はやや減少し、小規模取引先（年間売上高2,000～3,000万円）の閉店が多かった。また、仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁することが困難になっている。 海苔業界は経営者の高齢化と後継者不足等を原因とした廃業が増えてきている。今後、直接消費者に販売できるオリジナリティのある商品の開発を考えたいとのことだった。
食肉小売業	豚肉の仕入価格は若干下がったが、国産牛・和牛の出荷頭数が少なく、仕入価格が高騰している。牛肉は、9月から毎月1kgあたり100円上がっている。 輸入牛肉は、アメリカ・オーストラリアの干ばつで農作物の発育が悪く、出荷が少ないため高値が続いているが、売価に反映できず、売上が上がっても利益が薄い。
中古自動車小売業	消費税増税時の軽減税率について、インボイスを発行できない消費者からの買取（中古品）に対する特例の動向を注視している。

各種商品小売業	11月は業界として大変悪い月だったと思われる。年末にかけ好景気を期待している。
各種商品小売業	今月は、前月に開催された特別招待会、翌月に開催予定の30周年セールの間のこと、アパレル関連が振るわず、前年比93.4%という結果であった。12月の誕生セールでは、折り込みチラシ10万部を打つほか、福引抽選会も総額150万円相当の景品を用意し、30周年の節目にふさわしいような内容・数字を目指していきたい。
花・植木小売業	市場の状況を見ると、入荷量は前年並み、相場は前年比で2割程度の安値で推移した。11月22日(いい夫婦の日)の三連休までは婚礼も多く、バラ、ダリア、トルコキキョウ等を中心に引き合いが強かった。11月は、婚礼や葬儀といった業務需要以外の花の動きは静かな月である。
理容業	高齢で後継者がいないという理由での廃業脱退者が増加してきている。
自動車整備業	資金繰りが悪化傾向にある。売上単価の減少などが影響していると考えられる。
ビルメンテナンス業	ビルメンテナンス、廃棄物収集運搬、構内作業請負など、各部門で業績は順調に推移している。
給食センター	平成27年3月末で不採算部門の撤退があり、売上高は前年同月比で大幅な減少となった。食材の価格値上げ等はあるが、不採算部門の撤退・新調理法で製造した弁当の拡販・コストダウン等により、収益は改善されると思われる。
旅館・ホテル	今年の秋は、例年盤石だった紅葉の入込に陰りが見られた。特に連休明けからの入込が若干ながら落ち込んだ。今年の紅葉があまり良くなかったのも影響したように思う。
内装工事業	栃木県室内装飾事業協同組合の防災ラベル支給枚数から見ると、前年同月比カーテン用ラベルは12%増、敷物用ラベルは176%増、壁装用ラベルは71%増であった。4～11月累計では、カーテン用ラベルは17%増、敷物用ラベルは51%増、壁装用ラベルは14%増であった。ラベルの支給金額の前年同月比は18%増、4～11月累計では18%増であった。
一般貨物自動車運送業	荷動きは全体的に低調に推移しており、売上高が減少傾向を示している企業が多い。ドライバー不足による稼働率の低下が大きな要因の一つである。
貨物軽自動車運送業	昨年度に比べ、景況感は一進一退の状況を辿っていたが、11月度に入り、やや上向き基調に転じた。これから繁忙期に入り、更に上昇することが予想される。特に、国内向け建築資材は堅調である。今後の世界経済による輸出関連貨物の動向が気になる。 ドライバー(人手)不足の対応策が急務となっている。
一般乗用旅客自動車運送業	現在「ライドシェア」という外資系IT企業による「白タク」「相乗り」行為の合法化という動きがある。国交省は、これに対し現行の道路運送法において禁止している白タク行為にあたるということでストップをかけているが、業界として利用者の幅広いニーズに応えるための高度化、高質化に取り組む必要がある。
大谷石採石業	前年同月比較で変わりなし。前月から同水準で推移した。